

平成29・30年度

福島県学校緑化推進委員会田村支部指定

学校緑化推進校研究発表会

学校緑化推進校 小野町立浮金小学校

研究主題

教育目標の実現に向け、
学校緑化をどう効果的に推進していけばよいか。



- 期日 平成30年11月28日(水) 14:00~16:00
- 主催 福島県学校緑化推進委員会田村支部
- 後援 小野町教育委員会
- 会場 小野町立浮金小学校
- 日程

13:30 14:00

14:50 15:00

15:50 16:00

| | | | | |
|----|-----------------------|----|--|----|
| 受付 | 開会 全体会 (多目的ホール) | 休憩 | 講演会(多目的ホール) 「草花栽培をとおして伝えたいこと、 そして学んだこと」～小野高等学校による～ | 閉会 |
|----|-----------------------|----|--|----|

- 1 開会の言葉 14:00～
- 2 主催者あいさつ
福島県学校緑化推進委員会田村支部長 大槻 貴 (田村市立要田小学校長)
- 3 開催校長あいさつ及び講師紹介
小野町立浮金小学校長 松崎 健一
- 4 研究実践発表 14:10～14:50 (40分)
- ～ 休憩 ～ 14:50～15:00
- 5 講演会 15:00～15:50 (50分)

演題

「草花栽培をとおして伝えたいこと, そして学んだこと」

講師 福島県立小野高等学校農場長 教諭 小野 寿 先生

※ 課題研究草花専攻班の高校生5名による発表もあります。

- 6 お礼 15:50～
- 7 閉会の言葉

メモ

教育目標 「自ら考え求め、実践力のある、人間性豊かな子どもの育成」

○よく考える子 ○思いやる子 ○たくましい子

～気づき、考え、実行する～

1 研究主題

教育目標の実現に向け、学校緑化をどう効果的に推進していけばよいか。

学校緑化…学校環境緑化・森林環境教育

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題

現在、知識基盤社会やグローバル化が進行し、人口減少社会の到来や人工知能の飛躍的進化等により社会情勢が急激に変化し、子どもや学校を取り巻く状況は予測困難なものとなっている。そうした中で学校は、夢と希望を持って未来へと向かう子どもたちに、予測しにくい変化に対して主体的に関わり、自らの可能性を発揮し切り拓いて行く力を身に付けさせるため、自分への自信や郷土への誇りを抱かせることが必要とされている。

(2) 児童の実態

本校は児童数38名、中・高学年が複式学級の小規模校である。各種行事や清掃活動は全て縦割り班活動となっており、学年の壁がなく全校生が仲がよい。反面、幼い頃より決まった同一集団で過ごすことが多く、依頼心が強く自ら多方面に働きかける姿があまり見られない。

本校の児童は、三世代で生活する兼業農家の家庭が多く、農作業は身近なものではあるが、会社勤めの両親と生活する核家族化も進み、土に触れる機会が少なくなる傾向にある。また、田畑や森林に囲まれた緑豊かな環境で生活しているが、学校生活以外で外で遊ぶ姿は多く見られるわけではない。家の中で通信機器を使ったゲームに興じたり習い事や学習塾に通ったりする児童も多いのが現状である。

また、児童は、地域には山・川があることや、桜・つつじなどの観光地であることも知っており、自然に囲まれた地域であることはおおよそ理解している。しかし、単に「自然しかない」と言う児童も見られ、豊かな自然に囲まれた地域の本当のよさに気付いているとは言えないと考えている。

(3) 学校の実態

学校の環境は、敷地内に多くの植栽があり、教室の窓からも樹木や草花、地域の山々を臨むことができる。広くはないものの花壇、観察園、学校農園がある。様々な昆虫や動物を見ることができる。

教職員は、校長・教頭・学級担任4名・養護教諭・主査・用務員の9名である。一人がいくつもの校務を抱えているため、一人あたりの研修等の出張が大変多い。日々多忙感を抱きながらも目の前の子どもたちのため児童理解に努めがんでいるのが現状である。

地域の学校に対する協力は大きい。保護者は大変協力的であり、保護者の行事の参

加率は高く、材料の提供や当日の準備、片付けなど様々な面で協力をいただいている。自主的に学校敷地の草刈りをしてくださったり、校庭整地をしてくださる方もいる。さらに、浮金地区全戸が P T A 会員となっており、草刈り等の奉仕作業では全戸の協力を得て実施している。

日々の学校環境緑化については、用務員が花壇等の花の整備、除草作業等を実施している。年数回、P T A の協力を得ながら校庭整地や除草作業が行われている。

学校経営・運営ビジョンの中に、保護者の願いの一つとして「自分が生まれた地域に自信を持ってほしい」と記した。保護者の願いを受けて、地域の教育資源である豊かな自然環境を生かした自然体験活動を、いっそう充実させていく必要があると考えている。

以上のことから、緑豊かな教育環境を整備し、各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を横断的に関連づけて実践したり、P T A をはじめ地域と連携した実践をしたりして学校緑化の推進を図る。その取組を重ねていくことは、本校の教育目標の実現に向けた大きな一つの要素となるだろうと考え、上記の研究主題を設定した。

3 学校緑化の目的と役割

学校緑化を推進するにあたり、学校緑化の目的と役割を明確にして研究を進めようと考えた。学校緑化がもたらす効果とは何かを検討し、その目的と役割について次の5つにまとめた。

- 緑豊かな教育環境を整備し学習意欲を刺激し教育効果の向上を図る。
- 情操教育・自然科学教育の場を提供する。
- 静かな戸外の憩い場を提供する。
- 勤労・相互協力の大切さを学ばせ心身の健全な発達を図る場とする。
- 自然や愛校心の精神を培う場とする。

これらの学校緑化の5つの目的と役割を踏まえながら、教育環境の整備、教育活動の計画・実施していく。

4 学校緑化全体計画

本校教育目標
「自ら考え求め、実践力のある、人間性豊かな子どもの育成」
よく考える子 思いやる子 たくましい子
～気づき・考え・実行する～

緑化・環境てつながる教育課程

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| <p>国語科</p> <p>1年「はなのみち」</p> <p>2年「たんぼのちえ」</p> <p>3年「すがたを変える だいず」</p> <p>4年「春の風景」</p> <p>5年「からたちのはな」</p> <p>6年「せんねん まんねん」 「地球があぶない」</p> | <p>道徳科</p> <p>1年「もみじがり」 C 伝統文化国郷土愛 11月</p> <p>2年「さくらの木と いっしょに」 D 自然愛護</p> <p>3年「目をさますたね」 D 自然愛護</p> <p>4年「鳥に残したかきの実」 D 自然愛護</p> <p>5年「海をたがやす人たち」 「自然を守るエゾリス」 D 自然愛護</p> <p>6年「自然のゆりかご」 「地球があぶない」 D 自然愛護</p> | <p>生活科</p> <p>1年「きれいにさいてね」 5～10月 「なつだあそぼう」 「たのしいあきいっぱい」 「つくろう あそぼう」</p> <p>2年 「大きくなあれ わたしの野さい」</p> <p style="text-align: center;">理科</p> <p>3年 「春のしぜんにとび出そう」 「たねをまこう」 「どれぐらいそだったかな」 「花がさいたよ」 「実ができたよ」</p> <p>4年 「あたたかくなると」 「暑くなると」 「すずしくなると」 「寒くなると」</p> <p>5年 「植物の発芽と成長」 「花から実へ」</p> <p>6年 「植物のからだのはたらき」「人と環境」</p> | <p>図画工作科</p> <p>1年「どんどんならべて」</p> <p>2年「すてきなものいっぱい」</p> <p>3・4年 「まぼろしの花」 「つなぐんぐん」 「ヘチマ、ゴーヤが〇〇に」 「出たぞ！ギョトンドン」 「森のげいじゅつ家」</p> <p>5・6年 「伝えたい思いや気持ち」</p> <p style="text-align: center;">家庭科</p> <p>5・6年 「暑い季節を快適に」</p> |  <p>学校緑化5つの目的と役割</p> <p>総合的な学習の時間 3・4年 「緑を育てて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗木スクールステイ ・人権の花運動参加 ・緑のカーテン <p>5・6年 「浮金を見つめて」 「木の実クラフト」</p> |
|---|--|---|---|---|

- 行事・創意（自然とのふれあい体験活動）**
- ① 高柴山遠足
 - ② 5・6年宿泊活動 ～木の実クラフト～
 - ③ ヤマメの稚魚放流体験
 - ④ リンゴの収穫体験
 - ⑤ 森林環境教育 ～緑とのふれあいの森公園（小野町）にて自然体験活動～

- 委員会活動**
- ① ボランティア委員会

- P T Aによる活動**
- ① P T A親子ふれあいDAY ～親子木工教室～ H29.6.18
 - ② P T A学年行事1学年 ～親子で木の実クラフト～ H30.10.7

緑豊かな教育環境の整備

- ① 校舎外の緑化 花壇の整備（学級前花壇 昇降口脇 体育館前 学級花壇）
昇降口前脇 駐車場（プランター）校門周辺 フェンス
- ② 校舎内の緑化 昇降口 ホール 校長室 通路 トイレ 特別教室

P T Aによる活動 ① P T A奉仕作業（年2回）、P T A役員による校庭整地（年2回）

5 活動の実際

(1) 緑豊かな教育環境の整備

① 校舎外の環境緑化（花環境作り・プランター、鉢植えづくり）

- 情操教育・自然科学教育の場
- 静かな戸外の憩い場
- 勤労・相互協力の大切さを学ばせる場
- 自然愛護や愛校心の精神を培う場



a : 校庭教室前花壇, ベンチ脇鉢植え b : グリーンカーテン c : 校庭入口プランター
 d : フェンス回り e : 昇降口わき花壇 f : 昇降口鉢植え・プランター

○ 花壇 a と e

a と b の花壇には前年度からチューリップとヒヤシンスが植えてあった。花壇をもっと華やかにし、子どもたちが学校に来ることを楽しみにするよう、4月に校長、用務員を中心に職員で、パンジー、ビオラの苗を植えた。花壇の花の周辺は、近くにベンチがあることで子どもたちの憩いの場となっていた。また、理科の季節ごとの草花の成長や変化の観察や花粉の観察な



どの際にも活用されていた。

○ 人権の花運動プランター

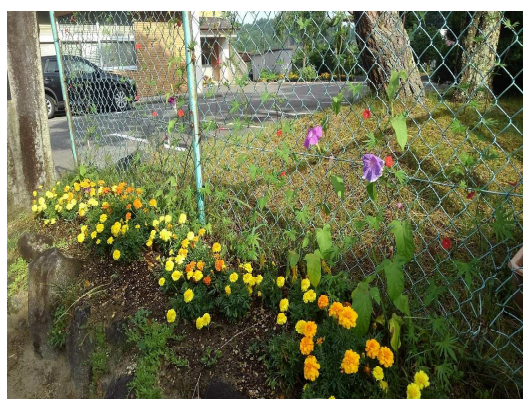
5月には、人権の花運動でいただいたサルビア、マリーゴールド、ベコニア、ペチュニアなどの苗を用務員の協力を得て、3・4年生と担任がプランター・花壇に植えた。プランターはfの昇降口前やcの校庭入口に置かれ、毎日子どもたちの目を楽しませた。3・4年生は、日々の水やりや追肥など苗植えやプランター移動も含め勤労・相互協力を学ぶ場となった。また、このプランターの一部は、近所の商店に置いていただき、地域の方々にも目にさせていただいた。



人権の花（水やり）

○ 校門・フェンス

同じ5月に、dの校門周りとフェンスが初夏から秋にかけて彩られ、美しい花で子どもたちや来校者を迎えられるようにアサガオなどを植えた。咲き始めてから長い期間フェンスを飾っていた。来校された方の目にとまって、話題となることもあった。



フェンスのアサガオ

○ 緑のカーテンプランター

6月には、緑のカーテン運動でいただいたヒョウタン、ゴーヤ、フウセンカズラの苗を3・4年生と担任、用務員等でプランターに植えた。bのように教室前でぐんぐんと育ち、見事な緑のカーテンとなり日影を作った。3・4年生にとっては、勤労・相互協力を学ぶ場だけでなく、成長の様子を理科の学習として育てているヘチマやホウセンカ、ひまわりなどと比較して観察することで、情操教育・自然科学教育の場となった。他の学年の子どもたちにとっては、憩いの場であり、自然科学教育の場となった。



成長した緑のカーテン

○ その他

職員室前と数点の鉢植えにコキアを植えた。形状のかわいらしさ、面白さ、紅葉時の色づきの美しさ、茎を乾燥させほうきとして使えること、種が「畑のキャビア」といわれるトングリなど子どもの感性の刺激とした。

10月にはパンジーや葉ボタンの苗を植え、寂しくなりつつある校舎外の環境を彩ろうと取り組んでいる。



鉢に植えたコキア

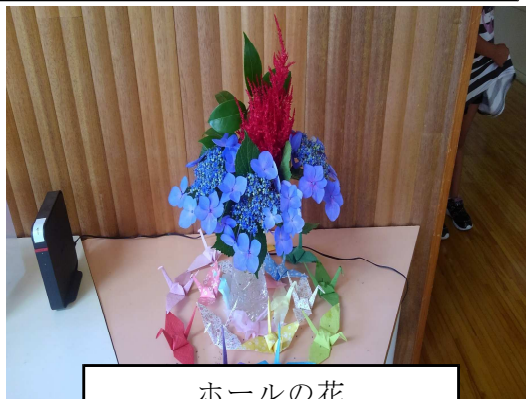
② 校舎内の環境緑化

- 情操教育・自然科学教育の場
- 静かな憩い場
- 自然愛護や愛校心の精神を培う場

敷地内で採取された花木を校内のあちこちに飾ってきた。主に担当したのは、用務員である。敷地内の草木の状況を捉えて、校長や職員と用務員が相談して飾る花木や場所を決めてきた。

玄関での飾りでは、登下校時、外での活動での出入りのときに目にするすることで、季節感や気持ちの安らぎ、草木への興味や関心をもてるようにした。また、校長が製作した木の実や枝を使ったアート作品を展示した。

そのほかにも棚やピアノ、トイレを小さな皿や器に生けた花を飾った。また、草花を乾燥させて飾りにもした。ある子どもは、飾られている花のスケッチを描いていたことがあった。また、他の子どもは、生けたの周囲の飾り作りを自主的に用務員と一緒に作っていた。季節感や美しいものへの気付き・感動、花の色や形、周囲との関係での飾り方の工夫などの造形的な見方、感じ方への刺激をすることができた。



ホールの花



昇降口

③ P T Aによる活動

- 勤労・相互協力の大切さを学ばせる場
- 自然愛護や愛校心の精神を培う場

浮金小学校では、5月と8月にP T A全戸（保護者のみならず地域の200戸全てがP T A会員）による奉仕作業を実施している。また、4月と8月にはP T A役員による校庭整備・整地作業を実施している。広範囲の作業になるが、整った環境をつくっていただいている。

こうした場に子どもを直接参加させることはしていない。（保護者と一緒に自主的に参加する子どもはいる。）しかし、全校集会で、子どもたちに、きれいになった校庭や敷地を素材として、感じたこと気付いたことを問いかけ、作業してくれたP T Aの方々の思いを考えさせ、自分たちにできることはないか見つめさせた。進んで校庭除草や枝片付けをしたり、水やりに取り組んだり、清掃活動に取り組む姿が見られた。



奉仕作業（5月）



全校集会（校長講話）

(2) 緑化・環境でつながる教育課程

- 学習意欲を刺激し教育効果を向上
- 情操教育・自然科学教育の場
- 勤労・相互協力の大切さを学ばせる場
- 自然愛護や愛校心の精神を培う場

① 1 学年、2 学年

1 学年と 2 学年は、生活科を軸に学習をつないできた。

1 学年では 4 月から 9 月にかけてアサガオや自分が選んだ草花を育ててきた。9 月から 10 月にかけて育てたアサガオの種を採ったり、ツルを取って乾燥させたりした。

2 学年では、学校畑でサツマイモ作りに取り組んだ。地域の方に指導いただき苗を植え、草むしりや水やりを続けた。収穫したサツマイモは、自分たちで調理し食した。

活動後は、学習カードに活動の振り返りを書き、学習を意味付けた。

| | | |
|-----------------------|------|-------------------------------|
| 2 道 さくらの木と いっしょに | 4 月 | |
| 2 国 たんぼぼのちえ | | |
| 1 生 きれいにさいてね | 5 月 | P 役員奉仕作業 |
| 2 生 大きくなあれ わたしの野さい | | |
| 1 国 はなのみち | 6 月 | 全戸 PTA 奉仕作業 |
| 1 生 きれいにさいてね | | 高柴山遠足 |
| 1 生 なつだあそぼう | 7 月 | PTA 親子ふれあい DAY ～親子木工教室～ |
| 2 生 大きくなあれ わたしの野さい | | |
| 2 図 すてきなものいっば | 8 月 | 全戸 PTA 奉仕作業 P 役員奉仕作業 |
| 1 生 きれいにさいてね | | |
| 2 生 大きくなあれ わたしの野さい | 9 月 | PTA 学年行事 1 学年 ～親子で木の实クラフト～ |
| 1 生 たのしいあきいっば | | |
| 1 生 つくろう あそぼう | 10 月 | ヤマメの稚魚放流体験 |
| 1 生 つくろう あそぼう | | リンゴの収穫体験 |
| 1 図 どんどんならべて | 11 月 | 森林環境学習 ～緑とのふれあいの森公園(小野町) |
| 1 道 もみじがり | | |



親子で木の实クラフト



サツマイモ掘り 2 年



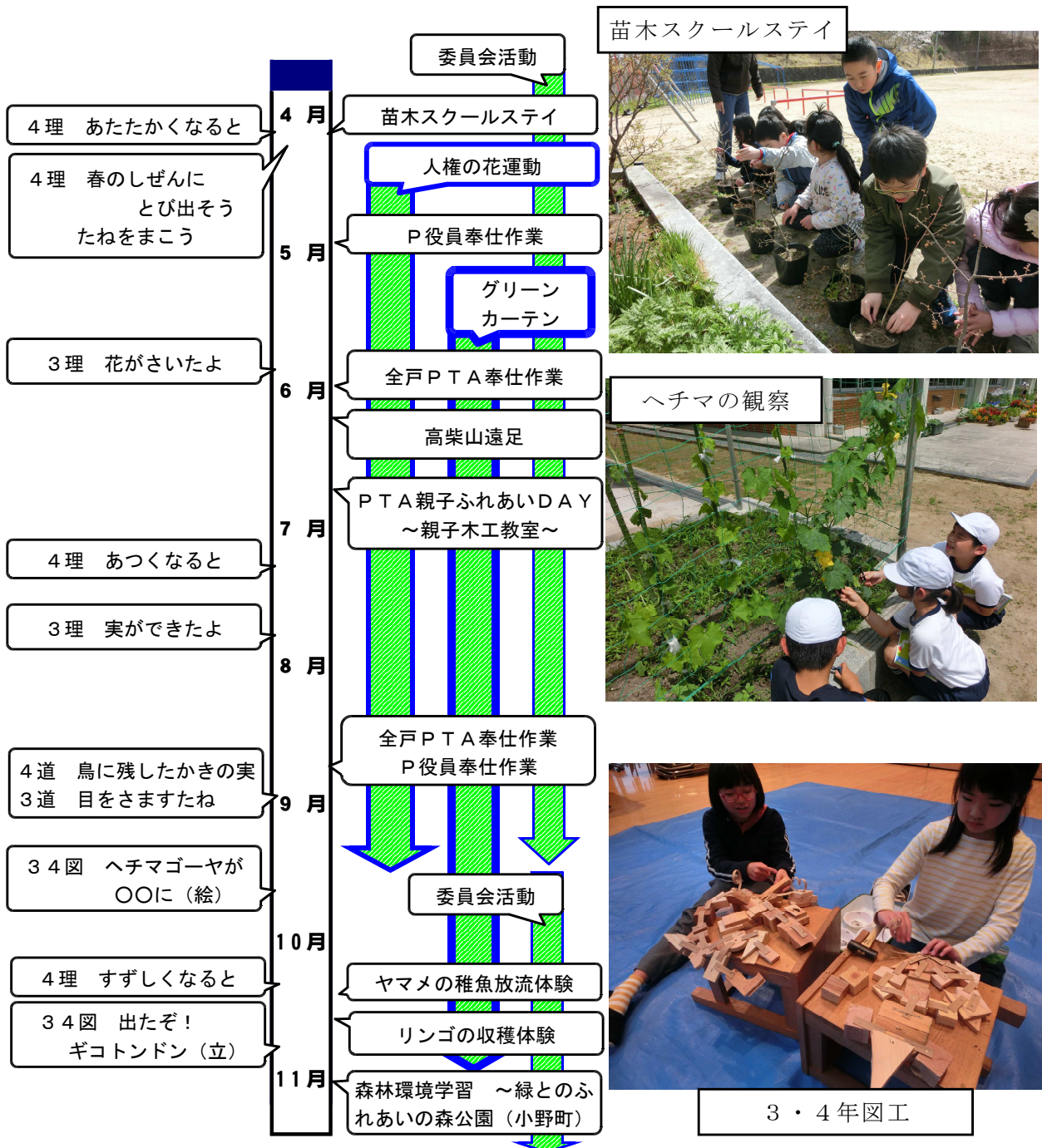
ヤマメの稚魚放流

② 3・4学年

3・4年生は複式学級である。本校の緑化活動の中核を担っている。総合的な学習の時間において地域学習一環として緑化に関わる活動として、苗木のスクールステイやグリーンカーテン、人権の花運動に参加し、植物を育ててきた。また、理科の学習では、季節ごとの環境の変化を継続的に観察したり、ヘチマ、ホウセンカなどを栽培し成長の様子を観察したりしてきた。

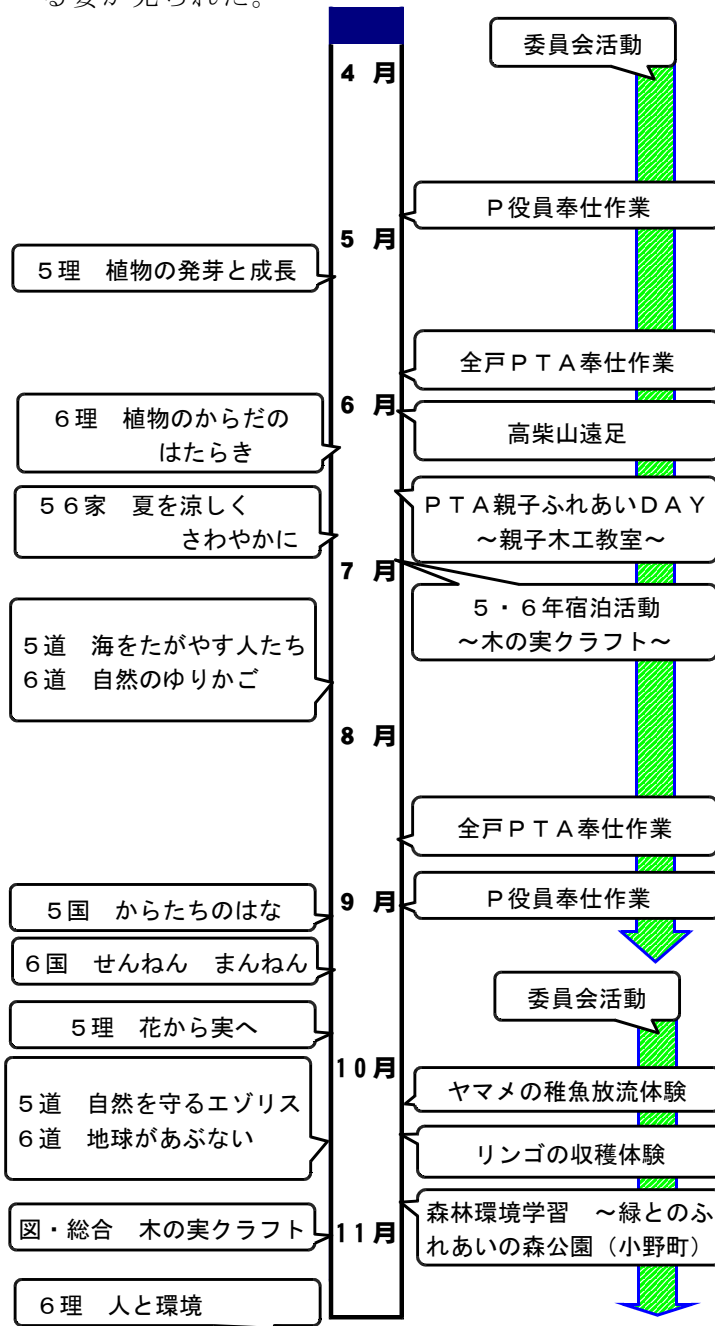
こうした取組と関連させて、図画工作科では、ヘチマやゴーヤを題材にした想像画を描いた。ヘチマやゴーヤを理科的な目とは違った見方で見て、想像を広げ表現することができた。また、木切れをつないで思い付いたものをつくる立体作品づくりも行った。

総合や理科での活動と関連させて道徳科において、自然愛護について話し合い、自分自身を見つめたり、友達の考えにふれたりさせた。

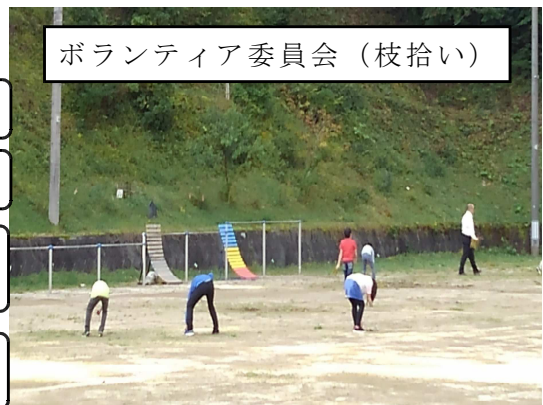


③ 5・6学年

5・6年生は教科よりも委員会活動や行事など特別活動や創意活動の中で、緑化活動に取り組んできた。活動に取り組む際には、活動の目的を確認して、主体的に考え、行動できるようにした。学校生活の中で気づき・考え・実行する姿が見られた。



高柴山登山（全校）



ボランティア委員会（枝拾い）



森林環境学習



木の実クラフト

地域の人材や林業組合，漁業組合など関係機関を学校に呼び込んでの活動は充実していた。反面，地域の緑化活動への貢献という面では，課題が残る。地域と共に緑化を今後も推進していく。

メ モ